

第2215回例会

9月16日(木)晴れ / 12:30～13:00 [松魚亭]
13:15～14:30 [西養寺]

1. 企画 職場訪問 金沢市指定文化財西養寺鐘樓の修理工事現場

2. 出欠

出席 27名
欠席 16名

3. 皆出席顕彰

49ヶ年 大村 精二君
45ヶ年 木下 和吉君
20ヶ年 的場 晴次君
1ヶ年 諸江 美奈君

4. お誕生日祝い(敬称略)

8月 岡田君(7日)
9月 中村(實)君(8日)、大村君(15日)、
佐賀君(22日)、喜多君(22日)

5. ニコニコボックス

水巻君、喜多君
久しぶりの例会です ご出席ありがとうございました
内堀君 本日の吉井会員の職場訪問楽しみにしています
大村君 おかげさまで昨日9月15日に卒寿(九十才)を迎えました健康に感謝、ロータリーに感謝
的場君 皆出席20年。長くもあり短くもあり感慨深いものがあります
合計 10,000円(累計 51,000円)



第2216回例会 ガバナー補佐訪問例会

9月30日(木)晴れ / 12:30～13:30 [松魚亭]

1. 講話

RID2610 石川第1グループB
ガバナー補佐 本田 英夫君
「ロータリーは健康資源」

2. 出欠

出席 28名 欠席 14名
ビジター 3名

3. 来訪者

野々市RC 本田英夫君、石澤康君、
里見安那君

4. RLIパートI修了書

喜多 利行君

5. 幹事報告

・8RC合同新年会中止の件



6. 委員会報告

職業奉仕委員会 クラブ協議会後委員会開催
クラブ広報委員会 書籍紹介「ロータリークラブに入ろう」
田中久夫(高崎 RC)著

7. ニコニコボックス

野々市RC 石澤君、里見君
野々市ロータリークラブの石澤です。本日は里見さんと本田ガバナー補佐に同行いたしました。宜しくお願い致します。
水巻君、喜多君
本田ガバナー補佐をお迎えて 講話を楽しみにしています
木下君 45年皆さまのおかげで皆出席
昨日はゴルフコンペ参加 RCの皆様多くの方の参加ありがとうございました
安宅君 昨日、木下さんの叙勲祝のゴルフコンペにて優勝させていただきました。
木下さんの叙勲にあらためてこころより祝意を表します。
合計 10,000円(累計 61,000円)
9月出席率 80.26%

ガバナー補佐訪問 会長・幹事懇談会

9月30日(木) 11:30～12:15 [松魚亭]

〈出席者〉

本田英夫ガバナー補佐
水巻会長
小泉会長エレクト
喜多幹事
木村(康)副幹事



ガバナー補佐訪問 クラブ協議会

9月30日(木) 13:40～14:40 [松魚亭]

〈出席者〉

本田英夫ガバナー補佐
理事
各委員長
入会2年未満会員
計19名



各委員長より事業報告と質疑応答

11月予定

金沢市内RCの例会変更は各クラブホームページでご確認いただくか、事務局へお問い合わせください。

講話予定

- 11月4日(木) 休会(祝日週)
- 11月11日(木) 卓話 西村勇人氏(二ツ屋病院理事長)
例会後11月定例理事会
- 11月18日(木) 卓話 ガンフレル パーサンスレン君(米山奨学生 モンゴル 香林坊 RC)
- 11月25日(木) 休会(祝日週)

金澤北ロータリークラブ



発行 2021.10.14thu

No. 979

事務局/金沢市大手町15番15号 金沢第2ビル4階
TEL:076-254-6368 FAX:076-254-6395
E-mail:office@kanazawa-north.jp
HPアドレス:http://www.kanazawa-north.jp



「鼠多門」

「米山記念奨学事業の目的」とは

会員の場 晴次

日本ロータリー「米山記念奨学事業」の実際

日本のロータリーが誇るべき事業に、ロータリー米山記念奨学事業というのがある。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」と日本のロータリーが協同して行う奨学事業だ。この制度ができてすでに70年が経とうとしている。

この事業の着想となったのが、日本のロータリーの創始者である故・米山梅吉翁の生前の功績を讃えて、東京ロータリークラブが始めた「米山基金」だ。奨学金給付の対象になるのは、訪日した私費外国人留学生に限られている。僕らは、彼らが将来有為の人材に育ち、いずれは日本と母国との平和の懸け橋になって、国際親善や国際平和に貢献してくれることを期待している。

具体的には、彼らに一年または二年の間、返還不要の奨学金（大学学部学生には月額10万円、大学院学生には月額14万円）を支給する。

その対象者は年間約850人、年間に支給する奨学金の総額は約15億円という規模で、民間団体による国際奨学事業では国内最大級を誇る。これまでにこの恩恵を受けた留学生はおおよそ2万2000人、その出身国は世界中の約130ヶ国に及んでいる。特徴的なのは、その事業費のすべて（ロータリアンと彼らの関連する企業からの寄付金収入、奨学会に贈与された株式等から発生する配当金、預金等の利息など）が日本のロータリアンの寄付によってまかなわれていることだ。

そのため、ロータリアンはこの事業の維持のために1年間、1人当たり最低1万6000円以上の寄付が必要になる（日本のロータリアンが9万人の場合を想定）。

もちろん支出した寄付金には、税制上の各種特典も認められている。この事業については、以下のようない特徴がある。

- ①日本のロータリークラブは約二二五〇あるが、その中の約八五〇のクラブが割り当てられた留学生の支援を担当する。このクラブを「世話クラブ」という。
- ②世話クラブでは、受け入れた留学生の相談役となる会員を決め、その会員は一年または二年間、その役を務めることになる。このロータリアンを「カウンセラー」という。
- ③米山奨学生であった留学生は、大学、大学院を卒業後は「学友会」（国内に33ヶ所、国外に9ヶ所：台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマー）という組織に入り後輩の支援をする。の学友会がある。

奨学金候補者決定から給付までの流れ

僕は、これまで地区の米山記念奨学委員会委員長を三年間務めたことがある。いわゆる「米山」（ロー

タリアンはこの事業をこう略称する）を知るいい機会になった。

米山は、ロータリーの行う事業のなかで最も分かり易い事業だと思う。事業の内容は簡単だ。i 私費、ii 外国人、iii 留学生という基礎資格を前提に、iv 前年度の地区の寄付総額で決まる奨学生数（年間約850人の奨学生の配分は地区全体の前年度の寄付額実績を第一の基準とする）、v 指定校制度（地区内の留学生を抱える各大学に対し、地区から次年度の奨学生の推薦枠を伝えて、各大学はその範囲内で学内の被推薦留学生を決定する）、vi 地区米山委員会による選考（書類選考と面接選考）の構成の中から、次年度の奨学生が決定する。

その後は、地区内のどこのクラブに世話クラブになってもらうか、その中のどの会員にカウンセラーになってもらうかを、自薦他薦を交えて選考する。クラブ側からもどの奨学生がいいか、国別、性別、大学別などの希望が提示され、いくつかの組み合わせの中からベスト・マッチングが決定していく。

四月の新学期から、実際の奨学金給付が開始する。奨学生たちは毎月、世話クラブの第一例会に出席し、例会時間中に会員に対し近況報告をして、その月の奨学金を受け取る。この一時間でクラブ会員との交流が生まれ、その後さまざまなクラブ行事に参加して、母国と日本との文化や慣習の違いを体験していく。

日本のお父さん・お母さんに相当するカウンセラーとの交流も濃密だ。休日には、近くの観光地にカウンセラーの家族と行楽に出かける。食事会に呼ばれ日本の食事を楽しむ。進学や就職の相談をすればカウンセラーは真摯にそれに応え、クラブのメンバーや地区の米山委員と一緒にそれに対応する。まさに一人の子供の親代わりのような存在になる。

卒業後、彼らは学友会に所属し、相互の連絡を続けながら交流は継続する。

ロータリークラブが掲げている「クラブ」の語源は…

ところで、ロータリークラブが掲げている「クラブ」(club)という言葉は、かの文豪ウィリアム・シェイクスピアによって造られたと言われている。

いまから四世紀ほど前、当時18歳の文豪の卵は毎日の放蕩生活のなか、村の領主に命ぜられ、彼の子を身ごもった年上の女性と結婚させられる。

その後、彼はロンドンに逃亡して戯曲家として勇名を馳せることになるが、ところが有名になればなるほど周囲に人が群れてきて好きな酒もおちおち飲めないようになる。

たまりかねた文豪は、居酒屋の主人に断って奥の一室を借り、本当の友人だけを招いた集いの部屋を設けた。そこで宣言したのが、「同好の諸君、明日もここに集まろう。古代エジプトのコプト語をヒントにして、われらの集いを『クラブ』と命名する」であった。

こうして「気のおけない同好者の集い」を意味す

る言葉、「クラブ」が誕生した。

僕たちの組織「ロータリー」も「クラブ」と呼んでいる。ロータリーのスピリッツを共有する気のおけない仲間たちの集いだ。

因みに、「ロータリー」の名称は、集会（例会）を会員各自の事業所で順番に開いたことから名付けられたものだ。

「割に合わないこと」がロータリーの真骨頂

ロータリークラブが出来て間もないころ、アメリカのとある新聞記者はロータリーの創始者ポール・ハリスに取材したのちに、次のような記事を書いている。

「最近、巷に変な団体ができた。彼が組織した団体は奇妙なことに、会員はその団体から何も得ないどころか、善を行うという特権を手にするために会費まで払うのである」

まさに、ここにこそロータリーの真骨頂がある。費用対効果を考えると割に合わないことだ、無駄遣いだ、偽善だ、金持ちの道楽だ、と思われる人もいるかもしれないが、それでもロータリーを愛して死ぬまで会員を続ける人が大勢いる。

一体、僕たちはロータリーの何に惹きつけられているのだろうか？

ロータリーの魅力について、それはロータリーによって「人生の目的」を知ることが出来るからだ、

と言う人がいる。僕もそれに同意する。

ロータリーの魅力は「自分磨きの旅を経験できること」

「人生の目的」、すなわち「人が生きる意味」とは何か？

これまで多くの先覚者たちがそれを説いてきた。新渡戸稲造や内村鑑三といったクリスチャンが言う人生の目的は「品格の完成」にあるという。仏教・真言宗の教えでは、人生の目的とは「心を磨くこと」だと言う。

経営の神様と称される稲盛和夫氏はその著書のなかで、人生の目的とは「心を磨き、魂を高めること」であり、「それは生きる目的、人生の意義そのもの」だと言い切る。

ロータリーでは、これらと同義の自分磨きの旅を経験することが出来る。そこに魅力があるのだと思う。

アメリカのある家庭では、息子がロータリーに入ったことを喜び、日本でいうお赤飯を炊いて喜ぶ、という特別なお祝いをする聞いたことがある。息子が社会に認められて一人前になったお祝いということだ。

◆10月は米山月間です◆

田中久夫（高崎ロータリークラブ）著
「ロータリークラブに入ろう！」（幻冬社 ルネッサンス新書）より抜粋 著者にご快諾頂きました

木下和吉君 旭日小綬章受賞祝賀記念ゴルフコンペ ゴルフ同好会

9月29日（水）能登カントリークラブにて
参加人数 40名（金沢北RC参加者13名）

- | | |
|-----|--------------------------|
| 優勝 | 安宅 雅夫君 |
| 2位 | 山上 公介君 |
| 3位 | 水巻 啓光君 |
| 7位 | 河合 修宏君（飛賞・バスグロ獲得84ストローク） |
| 9位 | 松本 範夫君（当月賞） |
| 10位 | 中村 實博君（飛賞） |
| 14位 | 辻 利陽君 |
| 15位 | 内堀 茂君（飛賞） |
| 16位 | 吉井 清君 |
| 27位 | 小泉 幸雄君 |
| 29位 | 松川 靖君（当日賞） |
| 32位 | 木下 和吉君 |
| 39位 | 北川 和夫君（ブービー賞） |

天気は風もなく絶好のゴルフ日和でした。プレー終了後、簡単に祝賀式典を行い加賀屋グループ相談役小田禎彦様・水巻会長より祝辞。木下氏より返礼及びご挨拶・旭日小綬章の実物も展示。表彰式パーティーは、順次・飛賞・個人賞を経て協賛各賞で大いに盛り上がりました。

参加者全員が豪華賞品をゲットすることができました。最後に「和倉温泉あへの風ペア宿泊券」小田禎彦様と全員でのじゃんけん大会…ゲットしたのはクラブ竹森の竹森久恵さんでした。因みに、松本さん、内堀さんは賞品3つゲット！最後に木下氏に記念品としてPINGのパターをプレゼント…大変喜んでおいでました。締めにご挨拶は、中村實博同好会長より頂き万歳三唱にて閉会となりました。賞品も多く抽選方式もあって大変盛り上がりました。

（会員 松川靖）

